【別紙様式Ⅰ】 令和7年度　学校評価報告書

学校名　厚木市立藤塚中学校

校長名 須田　剛

厚木市教育委員会の基本目標	1　自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成 【挑戦】 2　自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成 【共生】 3　変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成 【創造】

学校教育目標	学校経営の方針
知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育てる	(1)自他の「いのち」を大切にする心、個性や立場を尊重する心づくり (2)心身ともに安心・安全に過ごせる環境づくり (3)一時意識を受け止め、二次意識を育てる心づくり (4)共に学び、わかる喜びを実感させ、主体的な学習態度を養う授業づくり (5)創意工夫を凝らし、生徒と教職員が協力して創り上げる学校づくり (6)保護者・地域に信頼される絆づくり (7)well-beingの視点に立ち、教職員が働きやすい環境づくり

今年度の重点目標

(1)社会的自立を目指した生徒支援の充実　(2)「学びに向かう力」の育成
(3)「校則見直しプロジェクト」の推進　(4)働き方改革「1gを減らそう！」プロジェクト(1プロ)の推進

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
自他の「いのち」を大切にする心、個性や立場を尊重する心づくり	1・2・3	○年度当初に、いじめに関する授業を学活で実施した。 ○生徒会目標でのAIUE4原則（あいさつ強化・いじめ撲滅・歌声強化・エコ）の中で、いじめ防止に向けた取組を強化し、お互いの良さを認め合う活動を行った。 ○校内人権週間を設け、お互いの良さを認め合い、共有する時間「Good story」という活動を設けた。	○ここ数年、定期的に仲間を認め合う活動を継続的に行うことにより、他者理解や認め合う心が育まれた。 ○授業や委員会活動ではもちろんであるが、言葉遣い・人との接し方など普段の指導を継続していくことが課題である。	○いじめの未然防止につなげるために、4月の学活の時間でいじめ防止に関する授業を行う。同じ内容で指導することを通して、教員間の指導の差をなくしたり、傍観者から声を上げる生徒を育成する機会にしたりしたい。 ○校内人権週間を設け、お互いの良さを認め合い、共有する時間「Good story」という活動は、次年度も続けていく。
心身ともに安心・安全に過ごせる環境づくり	1・2	○学校生活アンケートを毎月実施し、学期始めには教育相談アンケートを基に教育相談を実施した。 ○YPプログラムを実施し、そのアンケートの結果を踏まえてプログラムを実施した。 ○校内支援フリールームの充実を図った。	○学校生活アンケートに書かれたことを、早めに担任だけでなく、支援担当、学年主任も目を通すことで、学年の職員で共有することで、個々の生徒に早急に対応することができた。 ○校内支援フリールームは、運営2年目となり、活動が昨年よりも充実してきた。母学級に入れない生徒が、学習や様々な活動を行うことができ、そのような生徒の居場所づくりができた。 ○学校評価の生徒アンケート、保護者アンケートを見ると、生徒・保護者の悩みを相談しやすい体制が整っているとは思っていないようである。	○教育相談アンケートなどの実施を必ず毎月1回行うこととし、生徒の声を受け止めることができる機会を確保する。 ○支援会議・学年会・ミニケース会議の充実を図る。 ○相談する環境は整っているので、保護者や生徒が有効活用できるよう、情報を発信していく。

共に学び、わかる喜びを実感させ、主体的な学習態度を養う授業づくり	1・3	○昨年度に引き続き、「学習評価と授業改善」をテーマに、校内研究を行った。 ○ICT機器を活用したり、課題解決学習や自分が調べたり考えたりしたことを説明する活動を取り入れた小集団活動を行ったりして、主体的な学習態度を養う授業づくりを行った。	○授業改善においては、「指導と評価の一体化」「単元構想に基づく授業づくり」はある程度実践できるようになってきた。また、主体的に学習に取り組む生徒を育成する中で、評価を意識し振り返りがしっかりとできていると考えられる。 ○家庭学習では生徒自身が自主的に取り組めていないことが学校評価などから読み取れる。学習した内容を定着させるため、家庭学習の充実が課題である。	○単元の学習が見通せるよう、単元目標や評価規準、学習計画を載せた「単元構想表」をすべての教科で作成、活用する。そのために、教科部会を充実させていく。 ○家庭学習の習慣づけを図るために、引き続き毎週、週末課題を出す。また、自学自習ができる「藤塚自習室」の効果的な活用方法を検討していく。
創意工夫を凝らし、生徒と教職員が協力して創り上げる学校づくり	2・3	○「校則見直しプロジェクト」として、職員、生徒共に校則が存在する意義、今ある生活の決まりのメリット・デメリット、それらを考えることを通して、生徒自身が自分たちの学校生活を見直すことを行った。	○今年度は、プロジェクト1年目ということで、生徒会本部役員と話し合いを進めてきた。生徒会本部役員は、様々なことを考え意見を出してくれた。ただ、生徒会本部役員という一部の生徒とのみ話し合いを進めているので、生徒全員に参画させるということはできていない。	○生徒会本部役員以外の生徒にも同様に考えさせる場面を設定する。学級で話し合いの時間を数時間設定する。また、学級での意見を代表委員会でどのように取り上げていくか、その意見を学級にどのように降ろしていくか、ということなど校則の見直しについて参画できる流れを計画する。
保護者・地域に信頼される絆づくり	3	○年2回、学級懇談会を開催した。 ○学校ホームページや学校だよりで、学校の様子を地域に発信した。また、青少年健全育成会等との連携を図った。	○ホームページの更新はまめにできた。学校だよりを月1回発行し、学校の様子を発信した。また、防災訓練や年末美化清掃など、地域の活動に生徒が進んで参加できるような環境づくりを行った。 ○担任や学校の方針を伝える学級懇談会の出席者が少なかった。	○引き続き、学校運営協議会と連携し、生徒が地域の活動に積極的に参加できる方法を模索していく。また、学校を保護者や地域の方により知ってもらうために、今年度に引き続き年2回授業参観・学級懇談会を開催する。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

学校関係者評価委員会は2月28日に実施した。学校評価の内容と今後の取り組みについて、ご理解をいただいた。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

学校教育活動は、全職員の共通理解のもと取り組むことができた。

生徒支援・指導面については、生活や授業のルールを守って学校生活を送っており、落ち着いて授業が展開されている。しかし、様々な理由から学校から足が遠のいていたり、教室に入れず仲間と共に活動できない生徒がいたり、様々な支援を要する生徒が増えてきたりしていることは本校の大きな課題となっている。集団に交わることが苦手な生徒やできない生徒を支援する環境づくり、居場所づくり、学習の保障が課題である。担任だけでなく、学年、教育相談コーディネーター、こころスマイル支援員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや外部機関との連携のさらなる強化が求められる。また、学級経営の充実を図るなど生徒の居場所づくりや、生徒を支援する環境づくりに努めていく。

学習面では、基礎基本が身に付いていなかったり、つまずきを感じたりしている生徒が見られる。また、家庭学習が十分でない生徒も多い。学力向上や家庭学習の習慣づけにむけて指導を継続していく。また、共に学び、わかる喜びを実感させるような主体的な学習態度を養う授業づくりをしていく。授業で一人一人が活躍する場を作り、生徒の良さや得意分野を積極的に活かすことができたり、ICTを計画的に活用するなど、わかる喜び・できた喜びが実感できる授業を行う。さらに、話し合いや討論、共同作業、グループ活動など、共に学び合う学習の場面を積極的に取り入れ、互いに支え合い、助け合う授業作りに努めると共に、生徒が自ら考え、判断し、行動しながら主体的に問題を解決していく能力を育む授業作りに努める。そのため、教員の授業力の向上に取り組み、指導方法の工夫・改善を図っていく。